

行政環境関連施策(第四節)											
頁	取組	担当部課	現況と課題等	H16	H17	H18	H19～H21	H22～H25	H17結果	進捗状況	達成見通し
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ
88	様々なメディアによる情報提供を実施します。	環境部	広報、ホームページを活用している。また、必要に応じ報道発表している。	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	広報、かわら版、ホームページ等で様々な情報を提供	B 計画通り	B 予定通り
88	地域における環境教育を実施します。	環境部	平成17年度より樹木の大气浄化能力チェック調査を市内3小学校で開催している。生涯学習出前講座「いちのみや出前一聴」に講師を派遣している。環境センターの見学を受付している。	講師派遣、随時実施 環境センター見学を受付	樹木の大气浄化能力チェック調査 講師派遣、随時実施 環境センター見学を受付	樹木の大气浄化能力チェック調査 講師派遣、随時実施 環境センター見学を受付	樹木の大气浄化能力チェック調査 講師派遣、随時実施 環境センター見学を受付	樹木の大气浄化能力チェック調査 講師派遣、随時実施 環境センター見学を受付	樹木の大气浄化能力チェック調査 「出前一聴」等講師派遣 環境センター見学を受付	B 計画通り	B 予定通り
89	不法投棄やごみのポイ捨てを発見した場合の通報システムの定着に努めます。	清掃対策課	平成14年度より、警察、県一宮建設事務所及び市関係各課により「不法投棄対策連絡会」を設立し、合同パトロールを実施している。夜間パトロールや郵便局との提携による通報制度により、不法投棄の防止に努めている。	継続実施	継続実施	継続実施			目標通り実施	B 計画通り	B 予定通り
89	監視カメラなどによる不法投棄監視システムの導入を検討します。	清掃対策課	平成14年度より、警察、県一宮建設事務所及び市関係各課により「不法投棄対策連絡会」を設立し合同パトロールを実施している。夜間パトロールや郵便局との提携による通報制度により、不法投棄の防止に努めている。	費用対効果を比較、検討	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	費用対効果の面で、システム導入までに至っていない。	D 不十分	D 1年以上遅れる
89	ごみ袋の有料化について検討します。	清掃対策課	現在は、推奨袋として透明・半透明の袋を使用している。粗大ごみについては有料化済。ごみ減量については、できる限りの啓発を実施し、それでもなお効果が期待できない場合は、有料化へ踏み切るための検討を実施する。	啓発に努める。	継続実施	継続実施			目標通り実施	B 計画通り	B 予定通り
89	「一宮市空き缶等ごみ散乱防止条例」や「一宮市飼い犬等のふん害の防止に関する条例」の定着を図ります。	清掃対策課	平成14年4月、それぞれの条例の施行、改正に伴いポスターを各町内に配布し、周知に努めた。また、啓発看板、啓発のぼり旗を作成し、希望者に配布するなど、10月の一宮市環境月間を中心に啓発している。	紙面啓発 17回 事業啓発 19回	継続実施	継続実施			目標通り実施	B 計画通り	B 予定通り
90	講演会や市民講座などを開催します。	環境部	生涯学習出前講座「いちのみや出前一聴」に講師を派遣している。環境センターの見学を受付している。	随時実施	継続実施	継続実施			「出前一聴」14回 環境センター見学を随時受付	B 計画通り	B 予定通り
90	あらゆるイベント開催にあたっては、環境に配慮したエコイベントを推進します。	公園緑地課	環境に配慮しながらスプリングフェスタ・サマーフェスタ・オータムフェスタ・ツインアーチのメリークリスマスを開催している。いちのみやリバーサイドフェスティバル運営協議会により、いちのみやリバーサイドフェスティバルを開催している。	継続実施	継続実施	継続実施			目標通り実施	B 計画通り	B 予定通り
90	環境情報の収集・発信の拠点を整備します。	施設管理課	エコハウス138に環境学習用のインターネット専用パソコン4台、図書812冊、ビデオ70巻を設置している。	追加購入し充実を図る。	継続実施	継続実施			図書追加購入し充実を図った。	B 計画通り	B 予定通り
90	広報誌やインターネットなど、多様な媒体による情報提供を推進します。	環境保全課	広報、ホームページを活用している。また、必要に応じ報道発表している。	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	随時、広報に掲載。また、必要に応じ報道発表を実施した。	B 計画通り	B 予定通り
90	広報誌やホームページなど、多様な媒体による情報提供を推進します。	施設管理課	各種講座・教室開催案内の広報掲載及び公共施設にチラシ・ポスターを配布した。	継続実施	継続実施	継続実施			目標通り実施	B 計画通り	B 予定通り
91	小中学校を通じた長期的・継続的な環境教育のカリキュラムを作成・実施します。	学校教育課	「平成11年度版 特別活動等指導の手引Ⅱ」をもとに、社会・理科・生活・総合的な学習の時間を中心に環境教育を実施している。平成14年度の学習指導要領の改訂、平成17年度の小学校の教科書改訂に合わせたカリキュラムの改訂をする必要がある。	全小中学校における環境教育の実施	小学校の教科書改訂に合わせたカリキュラムの改訂 全小中学校にお	中学校の教科書改訂に合わせたカリキュラムの改訂 全小中学校にお	全小中学校における環境教育の実施	全小中学校における環境教育の実施	全小中学校で実施カリキュラムの改訂はやや遅れている。	C 多少下回る	C やや遅れる
91	河川調査、資源ごみ回収、クリーンアップ、野菜の栽培などの体験型学習の充実を図ります。	学校教育課	総合的な学習の時間を中心に「豊かな心を育てる活動推進事業」との関連を図りながら、全校で地域清掃活動や野菜の栽培（小学校）を実施している。	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	全小中学校で実施	B 計画通り	B 予定通り
91	「エコスクール運動」を通して、省エネルギー、省資源、ごみの減量に取り組みます。	清掃対策課	平成15年度より実施。平成17年度は合併した旧尾西市・旧木曾川町の小中学校へも参加を呼びかけ、参加校のうち、52校に認定証を交付し、特に優秀な3校を表彰した。	全小中学校で実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	旧尾西市・旧木曾川町の小中学校もエコスクール運動に参加	B 計画通り	B 予定通り

行政環境関連施策(第四節)											
頁	取組	担当部課	現況と課題等	H16	H17	H18	H19～H21	H22～H25	H17結果	進捗状況	達成見通し
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ
91	全国展開されている「こどもエコクラブ」に積極的に参加します。	学校教育課	「こどもエコクラブ」への参加を啓発します。		小学校の1/3程度の参加	小学校の1/3程度の参加	小学校の1/3程度の参加	小学校の1/3程度の参加	小学校5校8団体が参加	C 多少下回る	C やや遅れる
92	町内における環境美化・環境保全活動の体制づくりを支援します。	環境保全課	県事業の「地域環境保全委員」制度に協力している。	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	目標通り実施 委員16名在籍	B 計画通り	B 予定通り
92	町内における環境美化・環境保全活動の体制づくりを支援します。	清掃対策課	町内会等による地域清掃の際、ごみ袋等の消耗品やティッシュ等の啓発資材を提供している。	継続実施	継続実施	継続実施			目標通り実施	B 計画通り	B 予定通り
93	「エコハウス138」などの環境学習施設における教育・学習内容を広く市民に周知します。	施設管理課	平成13年度「エコハウス138」パンフレット 10,000部作成し、随時「エコハウス138」チラシを作成している。エコハウス138第2期事業であるピオトープ完成後にパンフレットを改正予定	第2期事業基本構想を具体的なプランにするため基本設計を作成	実施設計に引続き建設工事に着手する。	パンフレット改正予定			実施設計に基づき建設工事に着手し、ピオトープが完成した。	B 計画通り	B 予定通り
93	環境教育・学習に関するセミナーなどを開催します。	施設管理課	平成14年度：12講座 14回開催 参加者487人 平成15年度：13講座 14回開催 参加者469人 平成16年度：14講座 14回開催 参加者396人 平成17年度：13講座 13回開催 参加者343人	12講座	13講座	継続実施			13講座	B 計画通り	B 予定通り
93	市内の学校や図書館などの公共施設をネットワーク化し、情報の共有化を図ります。	施設管理課	平成14年度：小学校 10校 816人 平成15年度：小学校 8校 649人 平成16年度：小学校 11校 972人 平成17年度：小学校 6校 512人	継続実施	継続実施	継続実施			小学校6校 512人の児童が社会見学学習	B 計画通り	B 予定通り
93	インターネットを通して、環境情報を市民に発信します。	施設管理課	平成15年度は、ホームページを利用して10回の情報提供を実施した。平成16年度は、ホームページを利用して6回の情報提供を実施した。平成17年度は、ホームページを利用して5回の情報提供を実施した。	継続実施	継続実施	継続実施			市ホームページを利用して5回の情報提供をした。	B 計画通り	B 予定通り
94	小中学校において、環境教育・学習に関する標準的なカリキュラムを見直します。また、環境教育の指導者を育成します。	学校教育課	教科改訂、教育課程の改訂に合わせてカリキュラムの見直しを図る。	従来のカリキュラムでの実施	小学校におけるカリキュラムの見直し標準的なカリキュラムの提示環境教育主任の任命	中学校におけるカリキュラムの見直し標準的なカリキュラムの提示環境教育主任の任命	標準的なカリキュラムの実施環境教育主任の任命	標準的なカリキュラムの実施環境教育主任の任命	全小中学校で実施カリキュラムの見直しについては、やや遅れる。	C 多少下回る	C やや遅れる
94	小中学校において、環境教育・学習に関する標準的なカリキュラムを見直します。また、環境教育の指導者を育成します。	公園緑地課	みどりの少年団育成事業を実施し、学習・野外活動等の緑化活動を通じて人間性豊かな心情を育成する。	学習活動 17回 奉仕活動 4回 野外活動 2回 植樹祭参加 1回	学習活動 17回 奉仕活動 4回 野外活動 2回 植樹祭参加 1回	学習活動 17回 奉仕活動 3回 野外活動 1回			学習活動 17回 奉仕活動 4回 野外活動 1回	B 計画通り	B 予定通り
94	市民を対象にしたごみ問題など、身近な環境問題解決のための学習ができるプログラムを作成するとともに、市民の指導者を育成します。さらに、その指導者による市民講座を開催します。	環境部	生涯学習出前講座「いちのみや出前一聴」に講師を派遣している。「環境保全・ごみ減量推進モニター」制度を実施している。平成17年度より樹木の大気浄化能力チェック調査を市内3小学校で開催し、その指導者を育成する。	講師派遣、随時実施 モニター制度実施	講師派遣、随時実施 モニター制度実施 樹木の大気浄化能力チェック調査を市内3小学校にて開催	講師派遣、随時実施 モニター制度実施 樹木の大気浄化能力チェック調査を市内3小学校にて開催	講師派遣、随時実施 モニター制度実施 樹木の大気浄化能力チェック調査を市内3小学校にて開催	講師派遣、随時実施 モニター制度実施 樹木の大気浄化能力チェック調査を市内3小学校にて開催	講師派遣、随時実施 モニター制度実施 樹木の大気浄化能力チェック調査を市内3小学校にて開催 小学生 60人参加	B 計画通り	B 予定通り
94	市民を対象にしたごみ問題など、身近な環境問題解決のための学習ができるプログラムを作成するとともに、市民の指導者を育成します。さらに、その指導者による市民講座を開催します。	清掃対策課	廃棄物減量等推進員や環境保全・ごみ減量推進モニターなど各地域における指導者の育成を続けていく。	モニター 14名	モニター 14名	モニター 20名			モニター通信を2回発行。各地域やイベントにて啓発活動を実施	D 不十分	B 予定通り
94	市民講座などで学んだ市民が、その学んだことを、自分の地域や職場へと、また、子・孫などの次世代へと伝えていくことができるような、市民が市民を育てる「人材育成の環」を築き	環境部	講座への講師派遣やモニター制度を実施する中、環境基本計画推進協議会の分科会で「人材育成の環」の構築に向けての取組について議論している。	環境問題講座 出前講座への講師派遣、随時実施 モニター制度実施	出前講座への講師派遣、随時実施 モニター制度実施	出前講座への講師派遣、随時実施 モニター制度実施			出前講座への講師派遣、随時実施 モニター制度実施	B 計画通り	B 予定通り

行政環境関連施策(第四節)											
頁	取組	担当部課	現況と課題等	H16	H17	H18	H19～H21	H22～H25	H17結果	進捗状況	達成見通し
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ
94	市民講座などで学んだ市民が、その学んだことを、自分の地域や職場へと、また、子・孫などの次世代へと伝えていくことができるような、市民が市民を育てる「人材育成の環」を築き	清掃対策課	平成12年度より「環境保全・ごみ減量推進モニター」制度を設立する。任期は2年で、定員は20名である。平成16～17年度は14名により、ごみ減量等に対する自主的な調査・研究に取り組んだ。	モニター 14名	モニター 14名	モニター 20名			モニター通信を2回発行。各地域やイベントにて啓発活動を実施	D 不十分	B 予定通り
95	「一宮市生活排水クリーン推進員」、「環境保全・ごみ減量推進モニター」などの制度によりリーダーを育てます。	環境保全課	平成3年度より「一宮市生活排水クリーン推進員」制度を設立し、生活排水対策の啓発等を行っている。	推進員打合せ年3回 消費生活フェア出展 生活排水クリーン推進員研修会参加	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	推進員打合せ年3回 消費生活フェア出展 生活排水クリーン推進員研修会参加	B 計画通り	B 予定通り
95	「一宮市生活排水クリーン推進員」、「環境保全・ごみ減量推進モニター」などの制度によりリーダーを育て	清掃対策課	平成12年度より「環境保全・ごみ減量推進モニター」制度を設立する。任期は2年で、定員は20名である。平成16～17年度は14名により、ごみ減量等に対する自主的な調査・研究に取り組んだ。	モニター 14名	モニター 14名	モニター 20名			モニター通信を2回発行。各地域やイベントにて啓発活動を実施	D 不十分	B 予定通り
95	環境活動リーダー養成講座を開催します。	清掃対策課	平成12年度より「環境保全・ごみ減量推進モニター」制度を設立する。任期は2年で、定員は20名である。平成16～17年度は14名により、ごみ減量等に対する自主的な調査・研究に取り組んだ。	モニター 14名	モニター 14名	モニター 20名			モニター等が各地域で活躍できるよう支援した。	D 不十分	D 1年以上遅れる
96	環境保全に関する取組が報われる仕組みや、その活動に対する支援・優遇措置などを検討します。	環境保全課	環境計画推進協議会の分科会で手法について協議している。	未定	手法を協議し、決定しだい、実施予定	手法を協議し、決定しだい、実施予定			NPOエコバンクあいちの「地球温暖化防止隊」の活動支援	B 計画通り	B 予定通り
96	いつでも誰でも参加できる組織づくりとして、総合ボランティアセンターを開設します。	地域ふれあい課	一宮市と市民活動団体（市民）が協力し合い、さまざまな分野で活躍する市民活動団体（市民）を支援するとともに、市民活動の活性化と市民の意識啓発を図る。平成16年7月市民活動支援センターを設立した。	市民活動支援センターを整備 一宮・尾西・木曾川広域市民活動情報サイトを開設	市民活動支援センター及び一宮市市民活動情報サイトを運営	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施し市民活動団体やボランティアを支援した。	B 計画通り	B 予定通り
96	ボランティア登録の手続きの簡素化により、グループや団体を創りやすくします。	地域ふれあい課	一宮市と市民活動団体（市民）が協力し合い、さまざまな分野で活躍する市民活動団体（市民）を支援するとともに、市民活動の活性化と市民の意識啓発を図る。平成16年7月市民活動支援センターを設立した。	市民活動支援センターを整備 一宮・尾西・木曾川広域市民活動情報サイトを	市民活動支援センター及び一宮市市民活動情報サイトを運営	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施し市民活動団体やボランティアを支援した。	B 計画通り	B 予定通り
96	環境監視委員や環境推進委員の仕組みづくりから始めます。	清掃対策課	平成16年度より、衛生委員廃止に伴い、「廃棄物減量等推進員」制度を充実させ、地域でのごみ出しルールの徹底、ごみ減量等への率先した取り組みを促す。	推進員 952名	推進員 994名	推進員 1,000名	継続実施	継続実施	目標通り実施	B 計画通り	B 予定通り
96	ボランティア、環境監視員や環境推進員と行政が常に連絡を取り合うように運営します。	清掃対策課	平成16年度より、衛生委員廃止に伴い、「廃棄物減量等推進員」制度を充実させ、地域でのごみ出しルールの徹底、ごみ減量等への率先した取り組みを促す。	推進員 952名	推進員 994名	推進員 1,000名	継続実施	継続実施	目標通り実施	B 計画通り	B 予定通り
98	拠点となる施設などをリストアップして、施設の所有者の理解を得ます。	公園緑地課	該当事業なし								
98	拠点となる施設の解説書（立て札などを含む。）、ガイドブックの作成を行うボランティアを支援しま	地域ふれあい課	該当事業なし								
98	今後の道路改修時には、できる限り環境に配慮した設計にし、車道部との間に緑の壁を作るよう努めます。	道路課	平成17年度、濃尾大橋の車道と歩道との間に植樹帯を100.0.m整備	富田一宮線 L=310.1m	濃尾大橋線 L=100.0m		濃尾大橋線 L=170.0m		濃尾大橋線 L=100.0m	B 計画通り	B 予定通り
98	エコマネーの母体となる市民団体・NPOの設立の後押しを行います。	経済振興課	該当事業なし								
98	福祉事業の一部をエコマネーの運用団体にゆだねま	経済振興課	該当事業なし								

行政環境関連施策(第四節)											
頁	取組	担当部課	現況と課題等	H16	H17	H18	H19～H21	H22～H25	H17結果	進捗状況	達成見通し
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ
99	環境家計簿の表彰制度をも うけるなど、環境家計簿の 普及啓発に努めます。	環境保全 課	平成12年度に環境家計簿を全戸配布した。 次年度以後は環境保全課や消費生活フェアなどのイベントで希望者に 配布している。	消費生活フェア で配布	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	希望者に配布	C 多少 下回る	C やや遅 れる
99	環境報告書や環境会計の導 入を啓発します。	環境保全 課	該当事業なし								
100	6月の環境月間などに合わせ て、グリーン購入のキャン ペーンをします。	環境保全 課	該当事業なし								
100	買い物をする時には、進ん で環境配慮型商品を購入す るようにポスターなどで呼 びかけます。	環境保全 課	広報やホームページで紹介している。	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	ホームページでグ リーン購入に関する 情報(グリーン購入 ネットワーク)等を 紹介した。	B 計画 通り	B 予定通 り
100	主に地元で作られている商 品を、積極的に市民にPR します。	環境保全 課	該当事業なし								
100	事業者に対し、意識付けの 周知徹底を図ります。	環境保全 課	該当事業なし								
101	ISO14000シリーズの取得を めざす事業所に対して、行 政がサポートできる体制を つくります。	経済振興 課	ISO14000シリーズの認証を取得した企業に対し、その審査にかかる経 費を補助する。 補助対象経費の1/2の95% 95万円を限度 平成17年度から限度額を50万円に変更	継続実施	補助限度額見直 し				0件 申請なし	B 計画 通り	B 予定通 り
101	事業所の環境活動を支援す るため、奨励金制度や表彰 制度などを行います。	経済振興 課	ISO14000シリーズの認証を取得した企業に対し、その審査にかかる経 費を補助する。 補助対象経費の1/2の95% 95万円を限度 平成17年度から限度額を50万円に変更	継続実施	補助限度額見直 し				0件 申請なし	B 計画 通り	B 予定通 り
101	大企業には、ISO14000シ リーズの取得を働きかけま す。	経済振興 課	機会をとらえて、ISO14000シリーズの取得に向け啓発を図る。	継続実施	継続実施				機会なく、啓発実績 なし	B 計画 通り	B 予定通 り
101	個人商店から中小企業ま で、過度の負担なく参加で きる市独自の環境活動基準 をつくります。	環境部	該当事業なし								
102	農地を保全・活用する土地 利用調整システムを検討し ます。	農業振興 課	平成17年度利用権設定件数 貸し手 7人、借り手 2人、土地 13 筆 7,744㎡ 平成17年度末現在 貸し手 100人、借り手 34人、土地 218筆 100,192㎡ 生産緑地制度により市街化区域農地を保全する。	利用権設定件数 貸し手19人 借り手11人 16年度末 貸し手99人 借り手37人	継続実施	継続実施			利用権設定件数 貸し手7人 借り手2人 17年度末 貸し手100人 借り手34人	C 多少 下回る	C やや遅 れる
102	生ごみの堆肥化及びその普 及に努めます。	清掃対策 課	平成16年度より生ごみを分別収集・乾燥処理し、堆肥の原料とする資 源化を試験導入する。	今伊勢町 60世帯 試験 導入	今伊勢町 600世帯 試験 導入	今伊勢町 木曾川 町 680世帯 試験 導入			7月より今伊勢町の 協力世帯を620世帯 に広げた。	B 計画 通り	B 予定通 り
102	生ごみの堆肥化及びその普 及に努めます。	農業振興 課	平成17年度市内公共施設と一部町内会及びマンションの協力を得て、 108,717ℓの生ごみから18,800ℓの堆肥を製造した。 他には高速1次処理物の堆肥化を平成17年度実施した。完熟堆肥にす るまではには更に研究を要する。平成18年度は、高速1次処理物の堆 肥化の効率を高めるよう研究する。	協力区域を一部 マンションにも 拡大する。	継続実施	協力区域を一宮 女子短期大学に も拡大する。	継続実施	継続実施	協力マンションから 923ℓの高速1次処理 物を回収。全体で は、108,717ℓの生ゴ ミから、18,800ℓの 堆肥を製造	B 計画 通り	B 予定通 り
102	病害虫防除技術を普及し、 減農薬農業への移行を図り ます。	農業振興 課	減農薬、減化学肥料をめざす農業者を県が審査し「エコファーマー」 として認定する。平成17年度末で123人が認定を受けている。平成18 年度は化学農薬のかわりに生物天敵を使う試験を引き続き計画してい る。これにより環境に配慮した消毒法をめざす。	「エコファ ーマー」認定を増や す。	化学農薬のかわ りに生物天敵を 使う試験を成功 させる。	継続実施			「エコファーマー」 として123名が認定 を受けた。 生物天敵も利用でき るめどが立った。	B 計画 通り	B 予定通 り

行政環境関連施策(第四節)

頁	取組	担当部課	現況と課題等	H16	H17	H18	H19～H21	H22～H25	H17結果	進捗状況	達成見通し
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ
102	有機・減農薬の地場農産物に対する認証制度を検討します。	農業振興課	水田農業の生産調整への取り組みの中で、特別栽培農産物への助成を行う。 平成16年度から面積要件を追加した。特別栽培農産物の差別化を図る。 特別栽培米の耕作面積は増えつつある。	市内18ヶ所の水田113,130㎡で特別栽培米を作り、減農薬減化学に努める。	継続実施	継続実施			市内29ヶ所の水田182,808㎡で特別栽培米を作り、減農薬・減化学肥料に努めた。	B 計画通り	B 予定通り
103	「エコアクション一宮」の取組を広く周知します。	環境保全課	毎年度「温室効果ガス排出結果」等各種取組を広報掲載、報道発表している。 それ以外の省エネ情報についてはホームページで紹介している。	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	「温室効果ガス排出結果」等各種取組を広報掲載、報道発表した。	B 計画通り	B 予定通り
103	「エコアクション一宮」を市民、事業者が取り組めるような計画として、普及啓発を図ります。	環境保全課	「エコアクション一宮」は行政の率先行動計画として実施している。	研究	研究				研究中	C 多少下回る	C やや遅れる
103	平成17年度の結果を踏まえ、計画の見直しを行います。	環境保全課	平成17年4月1日に一宮市、尾西市及び木曾川町の2市1町が合併し、対象施設が増えたことなどにより、平成17年度を基準年度にした実行計画に見直した。	研究	見直し	継続実施	継続実施	継続実施	平成17年度を基準年度にした実行計画に見直した。	B 計画通り	B 予定通り